

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

2023
AUTUMN | Vol. 94

特集 第二管区海上保安本部

青森海上保安部

コロナ明けの日常に 安全と安心を築く



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **94**

2023 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

- 1 練習船「こじま」4年ぶりの世界一周遠洋航海から帰港
- 2 海の事故ゼロキャンペーンの実施について
- 2 秋田県男鹿市への給水支援
- 3 沖縄県糸満市沖でダイビング中の7人を救助
- 3 練習船「いつくしま」進水式

特集 第二管区海上保安本部 青森海上保安部

- 4 **コロナ明けの日常に
安全と安心を築く**

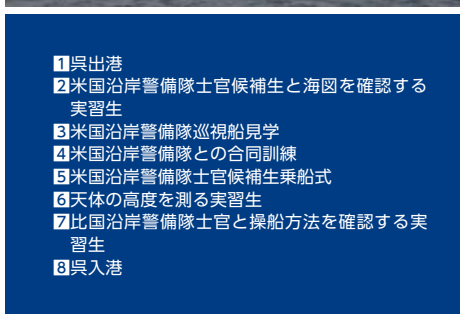
12 *NEWSFLASH*

裏表紙

海の「事件・事故」は118番!
海上保安庁音楽隊 第29回定期演奏会



練習船「こじま」4年ぶりの 世界一周遠洋航海から帰港



令和5年4月24日に世界一周の遠洋航海に出港した練習船「こじま」が、総日数101日間、総航程約46,300キロメートルに及び航海を終えて、同年8月2日、海上保安大学校（広島県呉市）に帰港しました。

本年の遠洋航海では、コロナ禍で中止していた世界一周を再開し、サンフランシスコ、ボルティモア（いずれも米国）、ピレウス（ギリシャ）、シンガポールの3か国4都市に寄港し、現地海上保安機関を訪問するなどして、国際感覚を養いました。

米国サンディエゴ沖では、SAPPHIRE（日米海上保安機関の共同取組）の一環として、米国沿岸警備隊と合同訓練を実施したほか、マレーシア沖では、マレーシア海上法令執行庁との通信訓練を行い、実習生は諸外国海上保安機関との連携の重要性を学びました。

また、本遠洋航海中、米国沿岸警備隊士官候補生（同年5月12日～6月4日）のほか、フィリピン、マレーシアの海上保安機関職員（同年7月19日～7月23日）が乗船し、訓練や実習等を通じて交流を深めました。



Photo Gravure

海の事故ゼロキャンペーンの実施について



海難防止啓発活動



海上安全教室



令和5年7月16日～7月31日までの間、「海難ゼロへの願い」をテーマに、官民一体となって海の事故ゼロキャンペーンを実施しました。期間中はマリーナ等への訪問や海水浴場等でパトロールを通じた安全指導を実施したほか、海難防止講習会や海上安全教室を通じ安全教育を行うなど、全国各地で積極的に海難防止啓発活動を実施しました。



Photo Gravure

秋田県男鹿市への給水支援



船川港における給水支援(一部写真を加工しています)

令和5年7月15日、梅雨前線に伴う記録的な大雨の影響により、秋田県内の一部地域において断水が発生しました。
第二管区海上保安本部は、秋田県から同県男鹿市に対する給水要請を受け、男鹿市内の船川港へ巡視船を派遣し、翌日7月16日～7月20日までの5日間、給水支援を行いました。(累計296件、約198トン)
被災された皆様の一日も早い復旧・復興を願うとともに、全国的に激甚化する自然災害に対し、引き続き当庁の機動力を活かして積極的に対応していきます。



地方自治体(給水車)への給水対応



地元市民への給水対応



Photo Gravure

沖縄県糸満市沖で ダイビング中の7人を救助

令和5年6月19日午前11時48分頃、ダイビングインストラクターから第十一管区海上保安本部に対し「沖縄県糸満市沖合にあるルカン礁付近でダイビングをしていた7人が行方不明になった」との118番通報がありました。通報を受け、直ちに巡視船艇、航空機等が出動し、同日午後3時15分頃までに当庁航空機に同乗する機動救難士により7名全員を吊上げ救助しました。

機動救難士による救助活動の状況

救助活動中の巡視船「はりみず」



Photo Gravure

練習船「いつくしま」進水式

令和5年7月4日、山口県下関市の三菱造船株式会社において、総トン数約5,500トンの練習船「いつくしま」が進水しました。本船は「海上保安能力強化に関する方針（令和4年12月関係閣僚会議決定）」に基づき、増加する学生・研修生への対応と効率的な乗船実習を実現するために建造されており、令和6年度に就役する予定です。就役後は、呉海上保安部に配属され、海上保安大学校での乗船実習に従事することとなります。



練習船「いつくしま」進水式の様子



練習船「いつくしま」

広島県に位置する海上保安大学校の練習船の名称として、世界遺産「厳島神社」を有し、内外からも知名度の高い島である「厳島（いつくしま）」にちなみ命名。

進水式後の練習船「いつくしま」
（一部画像を加工しています）

コロナ明けの日常に 安全と安心を築く

陸奥湾、津軽海峡、日本海——異なる表情を見せる海に囲まれ

本州最北端の地を守る青森海上保安部

コロナも明け人の流れが戻り、再び関係機関との連携が進む中で人々の、そして地域の安全と安心を支えている

取材・文／中島敦（オンサイト）



人口約27万人を擁する県庁所在地である青森市。都道府県の事務権限の一部が移譲される中核市にも指定されており、青森駅のすぐ隣に青森港が控える交通の要地でもある。今年大型クルーズ船は、青森ねぶた祭の期間中に5隻入港。また年間37回の寄港が予定され、街中には海外からの観光客の姿が目立つ。

その青森港に構える青森海上保安部は、管轄区域として陸奥湾、津軽海峡、日本海という3つの海域をカバーしている。

水産業では陸奥湾のホタテ養殖が盛んだが、有名な大間のマグロを筆頭に、津軽

海峡に面した下北半島ではイカやアンコウの漁が盛んで、津軽半島の竜飛崎^{たつひびさき}では近年、「海峡サーモン」がブランド品として人気を集めている。日本海側を見ればメバルの刺し網漁^{さしあみ}（海中に帯状の網を仕掛け、魚を絡めて取る漁法）やヒメの底建網漁^{そこたてあみ}（海底に向かって真っすぐ筒状の網を仕掛ける漁法）も盛んであり、良好な漁場に恵まれている地域だ。

「青森海上保安部は北は函館海上保安部、東は八戸海上保安部、日本海側の南は秋田海上保安部に囲まれており、それぞれに大型の巡視船が配備されていますが、当部の巡視船艇は中型巡視船が1隻、小型巡視艇が2隻。勢力的には周囲が固めてくれている感があります」と説明するのは今年4月に着任した植松剛紀部長だ。陸奥湾から津軽海峡に進出するだけで約3時間もかかるため、陸奥湾外で海難が発生した場合には、隣接する各海上保安部や、地域の日本水難救済会・各救難所との連携が欠かせないという。

中型巡視船1隻に小型巡視艇2隻という配備は、周囲の海上保安部と連携して広い海域を受け持つ、同時に広い内海である陸奥湾の安全を守るというニーズに応えるものだ。

コロナで途切れた連携を再び

植松部長が今、重視しているのは地域との連携だ。自身は一度目の第二管区海上保安本部管内での勤務である。東日本大

青森海上保安部 部長

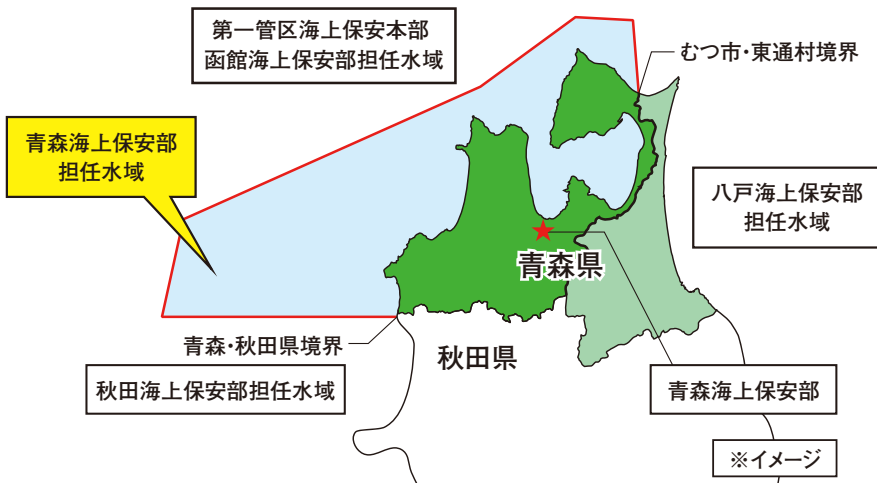
植松 剛紀

Uematsu Koki

海上保安学校教官室室長を経て今年4月に青森海上保安部長に就任。「コロナ禍で停滞していた地域との連携を再び密なものとし、職員一丸となって青森の海を守っていきます」



県庁所在地でもある青森市。その青森駅に隣接する青森港に行く巡視船「おいらせ」。特徴的な三角形の建物、青森県観光物産館アスパムが間近に迫るが、これほど都市部と近接した海上保安部は珍しい。



震災時、青森市では物流が止まってコンビニもガソリンスタンドも品薄となり、さらに一部地域は停電にも見舞われた。また昨年、内閣府が全国の津波被害想定を刷新して各地の被害想定が大幅に引き上げられた。陸奥湾内でも最大4メートルの津波が押し寄せると想定されており、これまで以上に入念な震災への備えと対応が求められることになった。



海難、密漁などに対応する巡視船「おいらせ」。他の2艇が小型巡視艇ということもあり、「陸奥湾の外側」をメインに受け持っており、大和堆のしょう戒活動は長期に及ぶこともある。



青森海上保安部 次長

津幡 司

Tsubata Tsukasa

東日本大震災では青森市も停電に見舞われ通信機器が遮断される中、保安部に詰めて対応にあたった。「あの時の経験を継承し今後に生かさなければ」と、地震津波対応マニュアルを元に運用要領の取りまとめを行っている。

「着任したばかりですが、各種会合に積極的に出席したり、テロ対策訓練を行いました」と、まずは関係機関との連携を深めています」と植松部長は言う。コロナ禍で行動が制限され会議も書面で実施されるようになって関係機関と顔を合わせる機会が激減したこともあり、相手の顔が見えないまま引継ぎが十分にできていないケースもあるという。過去の事例について確認しようとしても関係機関同士でも知らないといったこともあり、コロナ禍で疎遠になっていた関係を再び築いて強化していくことの大切さを痛感しているという。

恵まれた資源を守るために

ホタテの養殖は年間を通じて、陸奥湾内の沿岸全域で盛んに行われている。また、同湾内の環境保全のため海水浄化を目的として養殖するようになったナマコも、現在は海外向けの高級食材として人気を集めている。

「陸奥湾のナマコはイボが大きいのが特徴で、このイボが大きいほど高級食材として人気があります」と語るのは津幡司次長だ。ただし、需要の高まりに比例して密漁が増えるのも頭の痛いところで、「せっかく漁獲量を決めて生産調整して出荷しているのに、密漁は値崩れにも繋がってしまいます」とも。

組織的な密漁には暴力団が関与しているケースも多いため、青森海上保安部では地元警察と協力して大規模な取締りを行っている。さらに陸上、海上だけでなく航空機も活用して上空からも監視にあたり、毎年大規模な取締りを実施することで犯人検挙に繋がっている。

一方、特産品であるホタテについては貝殻等、漁業系残さの不法投棄という問題もあり、こちらは漁業者の意識を変えていくことが必要だ、と津幡次長は指摘する。

「取締りは行っていますが、良い悪いという判断の前に、昔からの作業のままに貝殻を廃棄している例が多い。『今までそうやってきたのに何が悪いのか』と。これに対しては漁業者が清掃作業を行って

る他県の例を示し、『陸奥湾のホタテは「ミを食べて育っている」と言われているので「すか?」と訴えて、意識を変えてもらうように努めています。』

大和堆のしよっ戒や漂流漂着木造船対応も

小回りの利く小型巡視艇が陸奥湾内を受け持つのに対して、中型巡視船「おいらせ」は従来型よりも速力を増すべく開発された「とから型巡視船」であり、その特性を活かして津軽海峡、そして日本海にまで出向いている。特に近年は好漁場である大和堆での外国漁船の違法操業を監視することが多く、長期にわたり、しよっ戒

巡視船「おいらせ」船長

梅本 大輔

Umemoto Daisuke

中型巡視船の船長として20名の乗組員を率いる。海上保安庁全体に言えることだが職員の高齢化が進む中で「方針を示した上で個人が自ら考え、もっとも能力を発揮できるようにして船を動かしたい」と、若手職員の指導を意識して日々の業務に取り組んでいる。



にあたることもある。

「ひと昔前のように外国漁船が大量に押し寄せているわけではありませんが、日本の漁船が安心して大和堆で操業できるように、他管区の船と連携して常にしよっ戒にあたっています」と語るのはいらせの梅本大輔船長だ。巡視船の存在、すなわちプレゼンスを示すことが、抑止力に繋がるのだ。

また、近年は沈静化しているものの、やはり日本海側ということと北朝鮮からのものと思料される漂流漂着木造船は懸念事項であり、ピーク時の平成30年には全国で225件発生したうち49件が青森県内の事案と、全体の4分の1に近い割合を占めていた。平成31年1月には青森県西部の深浦町沖で北朝鮮人が乗船した木造船も漂着している。漂流漂着木造船が増え、地元住民に不安が広がっていることを受け、青森海上保安部では令和元年秋に、青森県鯉ヶ沢町役場に海上保安官連絡所を設置するとともに、青森機動監視隊を発足させ、毎年冬の一定期間、職員が常駐することとして、日本海側沿岸部の監視に努めている。

東北三大祭りの一つで、国の重要無形民俗文化財に指定されている青森ねぶた祭りで実施される海上運航・花火大会では巡視船艇を出して海上警備を行うなど、青森海上保安部と地域との繋がりは強い。

「地域と繋がり、青森における海上の安全・安心を守る組織として、風通しの良

い、皆が一丸となる職場作りを心がけています」と植松部長は語る。

「当部の職員を見て感じるのには、しっかりと突き詰めて考え、仕事に取り組んでいるということとです。腰を据えて業務を進めていく確実さがあります。そして彼らが若い職員たちをしっかり導いて、立派な海上保安官に育てていかなければなりません。

今、当部職員は50名で限られた人数でも、仕事が多い時には、お互いに助け合いながらやっていくしかない。私は、家族があつてこそ、我々があると思っています。何のために働いているのかと問われれば、自分のためだけではなく家族のためでもある。そう考えれば必要な時には躊躇なく休みをとって貰いたいし、そうできる雰囲気作りも必要です。誰かひとり抜けたとしても、その人間が何にどう取り組んでいるのかが分かればフォローできる。互いに助け合いながら一つになって業務に取り組んで、青森海上保安部が地域社会に貢献できるように、尽くつていきます」と締め括った。

庁舎の前で、青森海上保安部管理課、警備救難課、交通課の皆さんに集まっただき記念撮影。





巡視船「おいらせ」通信士補
進藤 喜弘
Shinoda Yoshitomo



子供の時から憧れだった海上保安官に

海上保安官を目指したのは、父の釣り船で安全指導を受けたことがきっかけです。間近で見た巡視船にも感動しましたし、職務にあたる海上保安官の姿が格好良く、感動したことを覚えています。ただ、実際に自分で安全指導してみると、大変なところも多々あって現実は厳しいと痛感しています。

父も自分が海上保安官になることを勧めてくれていたので、海上保安学校に入学した時は本当に喜んでくれました。入庁後、休みに帰省して一緒に釣りに出たときには自分が1級小型船舶免許を持っていることに驚いていました。

これまで船での勤務しかありませんが、今後は交通課など陸上勤務での業務にも携わることになると思います。船と陸上、最終的には両方の部署の知識を十分に備えて、培った経験を各勤務地で活かしていきたいと思っています。



全力で取り組んで人生初の男泣き

警備救難課 警備係

木村 遼平 Kimura Ryohei

海上保安学校を出て、最初の赴任地は八戸海上保安部の巡視船まべちでしたが、そこで取り組んだ事件捜査で、検挙した違反がいくつかある中で1件だけ立件できずに終わったことがあります。それがもう悔しくて。上司から「これは立件しないがいいか?」と言われた瞬間に思わず涙がこぼれてしまった。人生で初めて、男泣きしてしまいました。高校時代の部活でも何でも、あそこまで自分を追い込んで何かに取り組んだことは一度もありませんでした。

その悔しさをバネに今も警備救難業務でがんばっていますし、取調べでも調書はきっちりと作成しなければと心掛けています。ただ、ていねいに相手に接し、相手の声を聞くことも忘れないよう努めています。

この先も警備業務、刑事業務を続けて巡視艇の船長になることが目標です。誰よりも先に現場に駆け付け、初動捜査に取り掛かる。事故でも救難でも、現場の最前線に立つのは機動力のある巡視艇だと思うので。ただちょっと自分、船酔いしやすいんですけれどね。



ライフスタイルに合わせて新しい業務に

交通課 専門員/安全対策係

柳谷 智美 Yanagiya Tomomi

これまでずっと警備救難の現場にいましたが、最前線で様々な事件に関わり、女性被疑者の対応など女性だからこそできる役割もあって充実していました。また、当時いた第六管区海上保安本部は中国語のニーズが高かったので、国際捜査官にもなりました。ただ、子供を育てる中で、家庭と仕事の両立が難しくなったため実家のある青森に戻ることを決め、同時に交通課に異動。現在の自分のライフスタイルに合わせて、計画的に業務を行えるところで。

主に灯台などの保守や海難防止活動などを行っていますが、これまで目を向けてこなかった業務が多く、新しい視野が広がったと感じています。

今、力を入れているのは漁船への海難防止活動です。救命胴衣の着用推進など、すぐに目に見えて成果を実感できる仕事ではありませんが、「ひとり着用してくれたらひとり助かった」と考え、密かな達成感を味わっています。



巡視船「おいらせ」主任航海士
Nakamura Kyoko
中村 恭子



巡視船「おいらせ」主任機関士
Ikeda Jiro
池田 次朗

海上保安官からその先の道へ

海が好きだったことから、自分がどういう職業に就きたいか考えたとき、業務の幅広さに魅力を感じて海上保安大学校に進みました。また、化学が好きで、海上での防除活動など化学に関連した仕事があることにも惹かれました。

青森海上保安部が初任地ですが、半年も経たない頃にナマコ密漁現場で取締りを行ったことがあります。地元警察と連携して犯人を検挙しましたが、それこそ怒号が飛び交う中で抵抗する相手を取り押さえたシーンが強く脳裏に残っています。密漁されたナマコを証拠品として見分し、数を数えていたときに、「ああ、これだけ漁師さんの被害を抑えることができたんだ」と実感しました。

当面は刑事業務の道を進みたいと思っています。また、今のところ女性の配属例はないですが、化学という面では機動防除隊にも興味があります。

もともと国際問題に関心を持っているので、幅広い知識と経験を重ねて将来的には大使館勤務も経験したいと考えています。

救難の最前線で活躍したい

海上保安大学校を卒業して去年12月に青森海上保安部に赴任しました。今は主任機関士としての仕事も相応にこなせるようになりましたが、着任して2カ月経った頃に真冬のに人が転落する事故がありました。搭載艇を出して救助したのですが、その時に「何もできなかった」自分を反省しています。何をすべきか、どう準備すべきかを自分で判断することができず、言われたことをやるだけで能動的に動くことができませんでした。初めてなので当たり前なのかもしれませんが、目の前で起こっている事案に対応するというのを具体的にイメージできていなかった。そういった経験もあり今ではかなり具体的に、どう動けばいいのかを自分で判断できるようになりました。

今の船は取締りが多い一方で、救難対応はあまりありません。それ自体は良いことですが、次に乗る船は潜水士が乗っているような救難の最前線で活躍できる船に乗りたいと思っています。



「パパの船、見たい!」って
言われるだけで幸せです

巡視船「おいらせ」主計士補

山田 尚武 Yamada Shobu

私は青森市出身で、東日本大震災の時は青森市も停電し、復旧したのは翌日でした。テレビでニュースを見て最初に目に入った映像が海上保安庁の潜水士が救助しているシーンで、それが脳裏に焼き付いていました。

元々あまり勉強は得意ではありませんでしたが、学生時代はずっと寮生活でしたし実家でも料理はしていたので、これなら自分が役立てるだろうと主計科を選びました。船での調理はバリエーションや栄養など、制限のある中で考えることも多く大変ですが、調理している時に「今日の飯、何?」とか覗きに来る人もいて、それが好きなメニューで「よっしゃー!」とか声が聞こえてくると何気に嬉しいです。

最近子供が、自分が乗っている船を理解し始めたんですよ。「パパの船、カッコイイ!」って。「見たいか?」「見たい!」って、そういう声を聞くだけで幸せになります。



海上保安官という仕事を
広く知らしめたい

管理課 渉外係

黒木 将馬 Kurogi Shoma

1年半、八戸海上保安部で船に乗った後、去年の4月に青森海上保安部の管理課に異動しました。ありきたりですが『海猿』を見て潜水士を知り、ニュースでも特殊救難隊が活躍している姿を見て海上保安官を志しました。人の命が掛かるプレッシャーのある中で、ひとりひとりの隊員が責任感を持って任務にあたっている姿に惹かれました。

管理課渉外係として、国有財産である設備や備品等を管理したり、船の燃料調達や契約といった業務を行っていますが、今、自分が力を入れて取り組んでいるのは学生募集です。自治体や消防といった他機関と合同で説明会を開催したり、小学校や中学校の依頼を受けて職場体験を実施することで、我々の業務を広くお伝えしています。

海上保安官というどうしても潜水士のイメージが強いですが、事件捜査もあれば交通系では灯台の保守点検もあり、幅広い仕事があるので、まずは興味を持ってもらうことを第一に取り組んでいます。

青森ねぶた祭 海上運航警備



青森と言えば青森ねぶた祭。東北三大祭りのひとつで国の重要無形民俗文化財に指定されています。「人形ねぶた」と呼ばれる山車と、「跳人（ハネト）」と呼ばれる踊り子たちが「ラッセラー、ラッセラー」と掛け声を上げながら青森市街地を練り歩きます。

毎年8月2～7日に開催されますが、最終日には大賞を取ったねぶたを筆頭に、受賞したねぶた6台を台船に載せて青森港を運航します。青森海上保安部も巡視船艇を出して、この海上運航の警備を担い、地域の安全に貢献しています。

写真は2022年海上運航の様子

画像提供：(公社)青森観光コンベンション協会



©JCGF

安部アラカルト

若き船長が見守り 育てる若い力

「私が判断を誤ることもありますし、そういう時にはどんどん言ってくれと伝えています」と、乗組員全員が考え、判断することを徹底させている。

巡視艇「ひばかぜ」

巡視艇「ひばかぜ」の目黒義樹船長は33歳。今年4月に初船長となり、4名の乗組員と共に日々の業務に取り組んでいます。

「私が入庁した頃、船長といえば40代でもまだまだ、といった雰囲気でしたが、今は30代でなる人も増えました」と目黒船長。「30代であれば船に数年は勤務している計算になり、相応の経験はあります。若い方がフットワークも軽しい船の作業は体力勝負だったりもしますから、ある意味、若い人で構成されるのはメリットです」とも。

目黒船長が乗組員に伝えたいと強く意識していることは「自分で考えること」そして「思っているだけでは相手に伝わらない」ということ。「船長の仕事は乗組員の命を守ること」と肝に銘じて、時に無理をしがちな現場を客観的な判断で的確に指示し、後進の育成に努めています。



高校球児が 3名揃った！

巡視船「おいらせ」

なんと巡視船「おいらせ」の乗組員には元高校球児が3人も！

写真中央の奈部川一輝航海士補はキャッチャーとして甲子園ベスト16入り。高校時代に大谷翔平選手（のチーム）に勝ったことは大きな勲章です！ 右側の山田尚武主計士補は甲子園出場こそ叶わなかったものの、3球団からドラフトの打診があったという逸材。そして左側の虻川颯一郎航海士補は「佐々木朗希選手と対戦したことが思い出です」とも。

輝かしい戦績はもちろんです。3人が声を揃えたのが厳しい練習を重ねてきた経験。厳しいと評判(?)の海上保安学校の寮生活や訓練も、まったく気にならなかったそうです。ひとつの事に一生懸命に取り組んだ経験は、海上保安官としてもしっかり生きています。

せっかくだからとバットやグローブ、ミットを用意。3人で構えていただきました。



青森海上保

豪雪地帯の 苦労話あれこれ

「青森海上保安部で大変なことは？」という質問に、ほとんどの職員の方が「雪！」と答えてくれました。東北地方で雪は当たり前？ いえいえ、青森市の年間降雪量はなんと812センチメートル！ 都市部の気象台や測候所の中でも山形県新庄市や北海道岩見沢市を抜いて日本一なんです（気象庁発行「日本気候表」より）。

白神山地の稜線に沿って吹く北西季節風と、八甲田を迂回してくる南西風とが合流して上昇気流を発生させ、世界でも有数の豪雪都市となっているのです。

冬になれば岸壁も甲板もご覧のとおり。青森海上保安部の巡視船艇も、毎日雪掻きを欠かさずに急な出港に備えています。

「朝起きたら車がバンパーまで雪で埋まっていた！」とか「1日に5回雪掻きました」とか、さらには「半袖で雪掻きしていました」など、雪にまつわる苦労話は堪えませんでした。

降り続く雪に巡視艇も岸壁も真っ白に。甲板の雪を降ろさないと船が転覆する危険もあり、雪掻きは欠かせません。





NEWS FLASH

11日

九管区 | 七尾保安部
日本航空学園石川での
学生募集活動



13日

七管区 | 門司保安部
JICA研修生に対する
海上犯罪取締り研修



14日

四管区 | 中部基地
地元消防とのコラボ写真撮影



16日

五管区 | 関空基地
ヴィッセル神戸ホームスタジアム
での展示訓練・118番PR



23日

学校 | 門司分校
研修科船艇職員等初任者課程
第88期修了式



26日

九管区 | 新潟保安部
新潟市内小学校と合同で
海岸清掃



2日

五管区 | 本部
大阪湾海上交通センター発足
三十周年記念式典
マリンタクトKOBЕ披露式



6日

六管区 | 松山保安部
小学生への海の安全教室



6月



3-4日

大学校 |
第70回海神祭



7日

一管区 | 小樽保安部
石狩灯台名誉灯台長称号授与



20日

八管区 | 本部
捜査技能審査会



8月



2-3日

本庁 | 広報室

子ども霞が関見学デー実施



17日

七管区 | 大分保安部

大分海上保安部長感謝状贈呈式
巡視船「ぶんごうめ」一日船長



22日

本庁 | 教育訓練管理官

海上保安政策プログラム8期生
岸田内閣総理大臣表敬



29日

三管区 | 本部

ジブチ沿岸警備隊に供与予定
の巡視艇進水式



提供：海上保安協会

25日

十一管区 | 本部

警察・海洋少年団と合同でマリ
ンレジャー事故防止啓発活動!



27日

本庁 | 広報室

5年ぶりの日比谷公園
サマーコンサート開催!



30日

二管区 | 八戸保安部

測量船「拓洋」一般公開



16日

三管区 | 本部

崎陽軒とのコラボ商品
(横濱パイナップルケーキ)発売!



22-23日

十管区 | 鹿児島保安部

巡視船「しゅんこう」船内見学
～潮風フェスタ～



24日

三管区 | 本部

海上自衛隊との合同訓練



撮影：海上自衛隊

撮影：海上自衛隊

24-25日

学校 | 保安学校

令和5年度遠泳訓練



海の「事件・事故」は118番!



118番通報とは

海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年から導入された緊急通報用電話番号です。

通報のポイント

「いつ」「どこで」「なにがあったか」などを簡潔に落ち着いて通報してください。

GPS機能を「ON」にした携帯電話で通報すると、正確な位置の把握につながります。



海難、人身事故に遭遇した、または目撃したとき



密漁・密輸・密航事犯等の情報を得たとき



油の排出等を発見したとき



不審船、漂流・漂着木造船を発見したとき

事前登録制 無料

聴覚や発話に障がいがある方へ **NET118**



聴覚に障がいを持つ方

ご利用できる方



発話に障がいを持つ方

右のコードを読み取る、または entry@net118.jp に空メールを送信し、返信されたメールの案内手順に従い事前登録をお願いします。



海上保安庁音楽隊 第29回定期演奏会

2023. **11.9** (木) 開場 18:00
開演 19:00

東京芸術劇場 コンサートホール

東京都豊島区西池袋1-8-1
JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分
(駅地下通路2b出口直結) ※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



入場無料
(入場整理券が必要です)

演奏予定曲

♪マンハッタン・ピーチ
♪どうする家康 メインテーマ ~暁の空~
♪ウォルト・ディズニー・ソングブック ほか

海上保安庁音楽隊技術顧問
指揮 **荒井 弘太**

はがき又はインターネットから応募が可能です。以下のURL又は二次元コードからご応募ください。



<https://www.kaiho.mlit.go.jp/doc/band/concert/29teki-oubo.html>

日本海事センター
JMC
補助事業

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



GREEN PRINTING JPMI
P-411 0011
この印刷物に環境に配慮した
素材と工場で製造されています。